



今まで意識して生活してきたことを、来年度へつなげよう

2025年も早いもので2か月が終わり、3月がスタートしました。4月に新年度がスタートしましたが、この1年はどうでしたでしょうか？

さて、1月9日発行の生徒指導だより17号で、『3学期はまとめの期間であると同時に、次への準備の期間でもある』という話をしました。それから2ヶ月が経とうとしていますが、準備は進んでいますか？あと1ヶ月で4月になり、1・2年生は学年が1つ上がります。3年生は高校など、次のステージに進みます。。準備期間はあと1ヶ月です。そろそろ準備を本格的に始めましょう！

～校則検討委員が職員会議で提案～

2月25日（火）の職員会議にて、校則検討委員会 委員長と副委員長が提案をしました。まず初めに11月から1月にかけて行われた、校則検討委員会の流れ（全校アンケート⇒すべてのアンケートに目を通す⇒検討）や検討の主旨を説明し、その後、提案事項を発表しました。

先生方を前にしての提案は緊張したと思いますが、発表内容を事前に覚えるなど準備を入念に行い、当日は堂々とした発表でした。

提案事項は無事、職員会議で承認されました。6月の生徒総会で、皆さんに提案し承認をとった後、正式に運用開始となります。

個人情報のため、ホーム

ページ上の掲載は控
えさせていただきます。

～登下校のルール・マナー～

皆さんはどのように登下校していますか？友達との話に夢中になって、周りが見えていないときはありますか？道は君たちだけでなく、小学生や通勤する人など、様々な人が利用します。登下校のルール・マナーについて確認しましょう。

- 交通ルール・マナーをしっかり守りましょう。
⇒自分や周りの命を守るために、ルールやマナーをしっかり守りましょう。
- 登下校は寄り道せず、速やかに登校・下校しましょう。
⇒公園にたまつたり、道端で止まって話したりしてはいけません。
- 道を広がって歩いてはいけません。
⇒周りを見て行動しましょう。横に広がって歩くと、通行する人や車の迷惑になります。
- 危険な遊びをしてはいけません。
⇒登下校中に限らず、「SNSで流行っているから」と安易に危険な遊びをしてはいけません。善悪を判断できるようにしましょう。
- 自転車での登下校はできません。
⇒市川市の決まりです。再登校や休日・休業中の部活動なども同様です。

裏面には交通事故にあった、中学生と高校生の手記を載せています。

登校中に自転車に衝突された中学生の手記から



突然、目の前が真っ暗になった。あのことは覚えていない。

私は今年5月に自転車との交通事故にあった。朝、友達と登校中に、後ろから自転車に激突され、そのまま前に倒れた。幸い、首のむち打ちは軽い打撲だけですんだものの、れっきとした交通事故として警察で処理されることとなった。

左右を確認しなかった私が悪かったのか、それとも、まわりで目撃した生徒いわく、イヤホンをつけ、とても速いスピードで走っていた自転車の人が悪いのか。今となってはもうどっちでもいいが、私は両方悪いと思う。交通事故というのは、普段当たり前のように登校したり、通学していても起こってしまうものなのだと思った。この事故で、もう一度自分のマナー違反や交通ルールについても見直す機会を得ることができた。

もう一つ思ったのが、経験してみないとわからないものだなあということだ。

最近、自転車の事故が増えているという話題をよく耳にする。学校でも、全校集会などで「自転車事故に気を付けよう。」という呼びかけがされたり、ニュースでは再現ビデオで事故の恐ろしさについて報道したりしている。

しかし、みんなの心の底に「私は事故にあわないだろう。」という気持ちがあるのだ。

さっき述べたように、普通の生活を送っていても突然事故は起きてしまう。私も事故にあってから交通事故の悲痛さに気がついたぐらいだから「私には非日常的」と思って生活していくおかしくない。…

自転車乗車中にトラックと衝突した高校生の手記から



僕は、昨年の10月ころ、T市内の交差点付近で自転車に乗っていて前から走ってきたトラックとぶつかる交通事故に遭いました。そしてたまたま近くにいたおばさんが、救急車を呼んでくれたり、お母さんに連絡してくれました。この事故で僕は肺に穴が開くという大怪我をしてしまったのです。

この日は、学校が終わって、自転車に乗り近所のスーパーに買い物に行こうとしていました。天気は晴れていて、道路はバスが通る通りで広くもなく狭くもないところでした。道路両側は狭い歩道があり、人が歩くのがやっとで、自転車が走れるような歩道ではありませんでした。自転車は左側通行ということは学校でやった安全教室で教わり知っていましたが、右折するのに右側を走った方がその先で曲がるのに都合が良かったので、そのまま道路の右側を走ってしまいました。

そして国道14号の交差点付近まで来たとき、対向して来るトラックとぶつかってしまったのです。事故直前、僕は、トラックから逃げようと歩道に入ろうとしたのですが、自転車のペダルが車道の段差部分にぶつかり、僕は道路側に倒れてしまい走ってきたトラックのバックミラーに僕の胸がぶつかったのです。一瞬息が止まりました。そして道路上にたたきつけられました。息も出来ず、すごく苦しい時間でした。我に返るとトラックの運転手のおじさんと、知らないおばさんが僕を起こそうしていました。僕は息苦しくやっとのことで呼吸をしていました。…

事故は一瞬です。被害者にも加害者にもならないよう、交通安全を心がけましょう。

「自転車事故を無くすために」～遺族・被害者、マナーアップ隊の手記～
(財団法人 千葉県交通安全協会連合会発刊)から抜粋

「自分は交通事故の加害者にも被害者にもならないだろう。」「少しぐらい、ルールを破っても大丈夫。今まで大丈夫だったし」そんな風に思っている人はいませんか？

世の中には、交通事故によって、家族を亡くされ、今も悲しんでいる人がいます。事故を起こした人も、その後の人生は、罪悪感にさいなまれていることでしょう。

ゲームはリセットすれば、リスタートすることができますが、一度失った命は、二度と戻ってくることはなく、リスタートすることはできません。

交通事故に限らず、自分や周りの命を守るために、ルールやマナーをしっかりと守りましょう。